

大学等名 実践女子大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

大学教育研究センター

(責任者名) 粟津俊二

(役職名) 大学教育研究センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	プログラム全体の状況については、学生総合支援センター教育総合サポート部において、プログラムに含まれる科目の履修・単位取得状況の分析を実施し、大学教育研究センター委員会において、クラスごとの単位習得状況や成績分布を把握することができる。クラスは原則として学科ごとに編成されるため、学科ごとの履修・修得状況も合わせて確認することができる。また各授業においては、LMSを用いて、受講者ごとの講義受講状況や、演習課題の回答状況などを把握することができる。加えて、大学教育研究センター長と担当教員とが学内情報システム等で連絡連携を行うことで、プログラムの履修・修得状況を質的・量的に把握することができる。
学修成果	各担当教員はLMSを活用し、各授業回や課題ごとの学修成果を把握することができる。また、学生総合支援センター教育総合サポート部において実施している授業評価アンケートのうち「満足度」や「当該分野をさらに学びたいかどうか」の項目を分析することによって、学生のデータサイエンスに対する意欲を把握することができる。単位習得状況や授業評価結果は点検機関である大学教育研究センターにも共有されている。加えて、大学教育研究センター長と担当教員とは学内情報システム等で連絡連携を行っており、学修成果を質的・量的に把握し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	全クラス統一の教材、例題、練習問題が準備されており、各担当教員はLMSを活用し、各課題や授業ごとの理解度を把握することができる。教材や課題に生じた疑義や理解困難な点などは、担当教員を通じて収集され、担当教員用の連絡システムを通じたやりとりで検討される。また、学生総合支援センター教育総合サポート部において実施している授業評価アンケートのうち「理解度」の項目を分析することによって、全授業回を通じた学生の理解度を把握することができる。大学教育研究センターは、上記の担当教員間のやり取りや授業評価アンケートの結果を把握しており、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本教育プログラムを構成する科目「データサイエンス入門」と「情報リテラシー基礎」は2024年度から全学必修となっており、受講を推奨すべき対象とならない。学習意欲の向上や自主学習の動機づけとしては、関連資格(MOS,統計検定)の受験推奨と受験料補助、また学内でのデータコンペ開催などでおこなっている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する科目「データサイエンス入門」と「情報リテラシー基礎」は2024年度から全学必修となっており、履修率は100%である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学では卒業次の進路をほぼ100%把握しており、本教育プログラムを修了した卒業生の第一進路の把握が可能である。また卒業生に対しては定期的にアンケート調査やインタビュー調査を実施しており、その活躍状況や教育の効果、本学の教育への要望事項などを把握している。また本学卒業生の採用実績がある企業・団体にもアンケート調査、インタビュー調査を実施しており、本教育プログラムを修了した卒業生の採用状況や評価を把握する仕組みを設けている。</p> <p>本学卒業生の採用実績がある企業・団体にもアンケート調査、インタビュー調査を実施しており、本教育プログラムを修了した卒業生に対する評価や要望を把握する仕組みを設けている。特に大学において習得してほしい知識とスキル、本学卒業生に不足している能力、経験、態度については詳細な聞き取りを実施しており、その内容を踏まえてプログラムの改善に活用していく。教育プログラムの検討には、産業界における実務経験を持つ教員の意見や、産業界に所属する外部理事や外部評価委員の意見も聴取する。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、社会の実例や身近な場面でAI等がどのような活用をされているかを紹介し、好奇心を促す講義内容としている。学ぶ意義を高めるため、学内でのデータ分析コンペを実施して優秀者を表彰することや、統計検定やなど関連資格の受験支援を全学的に実施している。また一部の学生には企業でのDXワークショップやDXに関する企業の見学、インターンなどを実施している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>大学教育研究センターにて授業評価を実施し、授業の内容、授業資料などに関する「わかりやすさ」の評価を聴取している。また、プログラムに関する科目の担当教員からの意見を収集している。これらの内容を踏まえて、担当教員間で対面あるいはオンラインでのミーティングによって、授業の「分かりやすさ」について検討する。検討結果を踏まえて、主担当者が一括して教材や練習問題等を修正し、改善を進めていく。</p>